

シニア世代は

野瀬 隆平

何かと肩身のせまい思いをしている高齢者。恰好よくシニアなどと云っているが、年金などで若年層に負担をかけ、社会のお荷物であると感じている。そんな中で、勇気づけてくれる言葉に出会った。

「……シニアは社会にとって必須の存在であり、『老い』のお蔭で人類の寿命が延び、今の文明社会が築かれた。」

ヒトに限らず全ての生物は、ある時がきたら死ぬ。ただヒトが他の生物と違うのは、年老いて自力で生きる能力を失っても生き長らえるという点である。女性で言えば、仮に50歳くらいで自分自身はもう子供を産めなくなっても、娘や息子たちが育児するのを手伝うことで家族や社会に貢献する。これを「長寿化のおばあちゃん」仮説というらしい。年を取ってから、さらに30年40年と生き延びる。即ち老年期があるのだ。

女性だけではない、男性も現役の時に得た豊富な知識や経験を生かして、属する集団を維持し発展させ、安定させるという大切な役割を担っている。

このように高齢者として生き長らえていることは、歴史的に見ても集団の存続の為に大きな意味があったのである。

ところで、高齢者を「シニア」と云う場合がある。そこには、特別の意味合いが込められている。ヒトが生理的に年を取ったら自動的に高齢者となるが、「シニア」と云う場合は、それとは区別して、高齢者が集団の中で果たす役割に注目する場合に使われる。云いかえれば社会に何らかの貢献をしている高齢者だけがシニアと呼ばれるのであって、皆が無条件でシニアになるという訳ではないというのだ。留意すべき大事な点である。

これからも人間の集団は、寿命延長の正のスパイラルに入り、ますます高齢化が進み、寿命が80歳からさら上へと向かうであろう。

さて、自分自身は「シニア」と呼ばれるにふさわしいふるまいをしているだろうか、はなはだ心もとないが、少なくとも将来世代に負の影響を与えるような生き方だけではないように心がけたいものである。